

第2回徳島県周産期医療協議会 議事録

令和7年3月26日(水)

オンライン開催

3 出席者

(1) 委員(11名)【五十音順・敬称略】

岩佐 武(会長)、加地 剛、岸 揚子、郡 尋香、近藤 秀治、斎藤 誠一郎、
中川 竜二、森脇 智秋、別宮 史朗、西村 正人、横山 敦子

(2) オブザーバー

小谷 裕美子、島田 亜紀、峯田 あゆか、吉田 あつ子、森内 洋美

(3) 事務局等

健康寿命推進課、消防保安課、子育て応援課、医療政策課、
広域医療室、病院局、各保健所等

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事1 周産期医療協議会各専門部会からの報告

議事2 その他

- ・令和7年度「新生児マススクリーニング検査に関する実証事業」計画のご案内と令和5年度のマススクリーニングの結果報告
- ・先天性サイトメガロウイルス感染症の診療ガイドラインによる新生児聴覚スクリーニングのガイドライン変更案
- ・RSウイルスの2025年度の予防方針について

(3) 閉会

5 議事の概要

議事1 周産期医療協議会各専門部会からの報告

(1) 母子保健専門部会報告 【資料4】

徳島大学 岩佐会長:

ありがとうございます。何かこの時点でご質問などあればお願いいたします。

先生、うつ伏せ寝というのは、最終的には退院の時に各助産師さんや看護師さんや医師からこういうリスクがある、という具体的なところをいかに聞かかが予防に一番つながるのではないかと気もしますが。各病院では、例えば過去の事例も詳しくは言えないと思いますが、睡眠剤を飲んでいたら絶対横に寝ないなどっておくだけで注意喚起になるのではないかと思います。

徳島大学 加地部会長：
ありがとうございます。

徳島大学 岩佐会長：
普及について・・・

徳島大学 加地部会長：
パンフレット、リーフレットを作り、これを配って下さいということはしていますが、おそらく徹底されてはいないのではないかなと思います。それをより具体的に、メンタルヘルスでは今されていますが、この時期にこれを説明して下さいということを、より具体的にして、それをやりましたというチェックするシステムにさせていただいて、きちんと妊婦さんにリスクの情報を伝えられる形にできればと思っています。今は施設によるのではないかとと思っています。

徳島大学 岩佐会長：
ありがとうございます。初めて気づいた時が起きてしまった時のような感じになっていますが、こういう話はこういう会議など、なにかの研究会ではよく先生から伺うのですが、現場の第一線で働いている助産師さんにもう少し届くような何かがあったらすごくいいのではないかと思います。

徳島大学 加地部会長：
ありがとうございます。研修会など配慮させていただいて、皆さんに知っていただきたいと思います。僕もこういうことをするまで全く知らなかったので、これを知っているか知らないかですいぶん違うのではないかなと思うので、ぜひそういう機会を作っていきたいと思います。ありがとうございます。

徳島大学 岩佐会長：
ありがとうございます。では。続きまして、災害対策部会についてもお願いいたします。

(2) 災害対策部会報告

【資料5】

徳島大学 岩佐会長：
ありがとうございました。加地先生のご説明にご質問などあればお願いいたします。マニュアル改訂の3番の令和6年4月中に開催するというのは、令和7年のことです

ね。

徳島大学 加地部会長：

すみません。間違いです。令和7年4月中に部会を開催して今後の方針をもう1回検討したいということです。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございます。この訓練を準備したオブザーバー参加している峯田先生、どんな訓練だったか、簡単に説明いただけますでしょうか？

徳島大学 峯田あゆか：

徳島大学の峯田です。3月16日に災害訓練ということで、高知医療センター産科の渡邊先生にご指導いただき、講義もいただき、具体的な研修ができたのではないかと思います。今まで、災害訓練はどういうところにポイントを置くなど、わからないまま進んでいたところがあると思いますが、吉野川の北と南で違うとか、何人ぐらい重症者が来るかということが具体的によくわかり、今後の訓練につながるような研修だったと思います。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございます。他に何かご意見などございましたらお願いいたします。

ここで聞く内容ではないのかもしれないのですが、県内の各病院の耐震性・免震性について、県立中央病院など病院自体が少し浮いた構造になっているので、震災にあわれた先生の話の前に伺った時に、その免震、耐震かわからないですけど、その構造によって、全然物も倒れなかった病棟と全部倒れて使えなくなった病棟があつて。その二つに如実に差が現れたので、徳島県もそういうことも含めて確認しておいた方が、と言われたのですが。どなたかご存知の方とかいれば。日赤はどうなのでしょう？別宮先生、何かご存知ですか？

徳島赤十字病院 別宮部会長：

細かい所までは詳しくは知りません。もちろん、病院棟自体は免震構造だったと思います。施設自体が崩れてしまうことはないという予想はしております。ただ、内部でどのあたりが一番揺れて、被害を受けるかとかいったことまではなかなか実際起こってみたいとわかりません。

徳島大学 岩佐会長：

それによって津波が来る来ない以外に、機能できる病院と機能できない病院がまた

変わってくるのではないかと、先生はおっしゃっていましたので。また、もし機会があればぜひ。

徳島赤十字病院 別宮部会長：

当院は皆さんもご存知かも知れませんが、予想されている最大級の南海トラフ地震が発生すれば、多分2階を超えて3階まで避難しないとイケないのではないかと予測されています。他の医療機関の方たちに協力していただかなければいけないと思っています。その時は申し訳ありませんがよろしくお願いします。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。小谷先生、お願いいたします。

徳島赤十字病院 小谷 裕美子：

小谷です。災害対策で子供たちの医療的ケア児について個別に作る災害時の避難計画に関わらせていただいておりますが、その時に、電源について一番問題になることが多くて。耐震もそうなのですけれど、非常電源の本体がどこにあるかということ調べておいた方がいいということをお聞きしました。ですので、大学病院もそうなのですけれど、たくさん電源が余っているので使える場所があるはずなのですが、それを、地域もそうですし医療機関もそうですし、本当に使えるのはどれぐらいなのかということ、大人と子供の両方が奪い合いになる場合もあるので、県の方に把握していただきたいということをひのみねの医療的ケア児のセンターであるとか、大学病院の森先生と東田先生、災害時に小児神経でキーになっていらっしゃるの、我々時々集まって話したりはしているので、もし意見として取り入れていただければと思います。僭越ながら言わせていただきました。ありがとうございます。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。ではまた加地先生、部会で今の小谷先生の件も含めてご検討というか、ご確認とかも。

徳島大学 加地部会長：

はい、わかりました。ありがとうございます。日赤の問題も大きな問題ですし、医療的ケア児の問題も大きな問題なので、どこまでこの部会で検討できるかわかりませんが、ぜひ検討させていただければと思います。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。では続きまして、妊産婦メンタルケア部会につきまして、

別宮部会長よりお願いいたします。

(3) 妊産婦メンタルケア部会報告 【資料6】

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。ただいまの別宮先生のご説明に何かご質問などございましたらお願いいたします。全然関係ないかもしれませんが、時間がないというのが結構な意見だったと、皆様の悩みだと思いますが、産後ケアを結構されているところがあります。こういうメンタル面にはつながってくる可能性というのはあるのでしょうか。それが普及していった場合とか。

徳島赤十字病院 別宮部会長：

可能性としてはあるように思います。時間がないというのと直接関係があるかどうかかわからないのですが、時間がないという先生方に、どんどんやってくれというのはなかなか難しいと思いますが、少しでも問題になりそうな人たちを見つけてほしいという感じはしております。

徳島大学 岩佐会長：

時間がないというのは、医療者の方でしたね。申し訳ありません。メンタル面という面でも、妊婦さんのメンタル面という点で、やはりそういう産後ケアのような仕組みが普及していくと少し良くなる可能性が。

徳島赤十字病院 別宮部会長：

良くなるようにしていくために、このような働きかけとメンタル面で問題がありそうな患者さんを早く見つけていかないといけないと思っています。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。その他、何か。

徳島赤十字病院 別宮部会長：

妊産婦メンタルケア支援の、別冊が改訂になりました。医療機関等が以前と少し変わっておりますので、産婦人科あるいは精神科の先生方を受診する場合、あるいは連絡する場合、こういう方法で行ってくださいというようなことがまとめてありますので参考にしてください。県の方から郵送していただけたのでしょうか？

健康寿命推進課 :事務局

すみません。この会議終了後に、正式に決まれば発送させていただこうと思っております。

徳島赤十字病院 別宮部会長：

はい、ありがとうございます。情報提供書も後ろにつけていますのでよろしく願います。各機関に送らせていただく予定です。以上です。

議事2 その他

- ・令和7年度「新生児マススクリーニング検査に関する実証事業」計画のご案内と令和5年度のマススクリーニングの結果報告【資料7】

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。何か今の小谷先生のご発表にご質問などありましたら願います。すみません。聞き逃したかもしれないですけど、全国的にはどの程度の普及率と言いますか、かなり一般化されているという・・・

徳島赤十字病院 小谷 裕美子：

全域でやっているかは別にして、全ての県でほぼやっています。疾患名はそれぞれ別々で、SMA と SCID だけのところもあれば、青森みたいなライソーム病以外にさらにもというような県もありまして。ただ SCID と SMA は急ぐ疾患なので国の方が実証事業を始めたということになります。そして、受検率についてですけれども、1点であれば95%と、80%は決して多いわけではありません。徳島の方は、全部を知っているわけではないのですが、KMB さんが把握されている部分で言うとあまり多くない方になってしまっています。

- ・先天性サイトメガロウイルス感染症の診療ガイドラインによる新生児聴覚スクリーニングのガイドライン変更案【資料8】

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。説明に対して何かご質問などございましたら願います。

徳島大学 中川委員：

はい。大学小児科中川です。いつもお世話になっております。細かいことなのですが、手元の資料の8枚目ですが、血中 CMV 量って書いていますが、サイトメガロの PCR

は保険適用ではないので、これは削った方がいいのではないかと思いますけれども。

徳島県医師会 島田亜紀：

すみません。何かから取ってきたのをそのまま使ったのだと思います。ガイドラインではないところから取った図だと思いますので、直します。

徳島大学 中川委員：

CMV の PCR は保険適用ではないし、僕たちが測っているのは CMV の抗原量を測っているのですが、そこをまたご相談いただければ。

徳島県医師会 島田亜紀：

ありがとうございます。

徳島大学 中川委員：

はい、お願いします。

・RS ウイルスの 2025 年度の予防方針について 【資料 9】 【資料 10】

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。何か今のご説明に対してご質問がございましたらお願いいたします。

生まれたお子さんに全員打つのと、母親にも予防接種でしたか？あれをするというのは効果としてはどうなのでしょう？お互いカバーする領域が違うのでしょうか。

徳島大学 中川委員：

やはりお母さんの体の中の抗体産生がどれくらいあるのかということと、抗体移行が胎盤を通してどれくらいあるのかということとで、やはりその確実性が本人に直接抗体製剤を注射することに比べると、アブリスボの場合は少し劣るのではないかと実感はあります。ただ、やはりアブリスボを打っているお母さんから生まれた赤ちゃんが RS に感染しにくいであろうということは、确实だと思います。けれども今シーズンの流行の話聞いた限りではアブリスボを打っていても RS に感染したという低月齢の赤ちゃんもやはり少しは出ているらしいので。ですからアブリスボ、イコール万能ではなさそうです。

ですから、このベイフォータスとかシナジスの投与の適用がない方たちにとっては、もうそれしか今はないので、接種を産婦人科の方でも推奨していただければと思うの

ですけれども、シナジス、ベイフォータスの投与の適用がある方に対しては、アブリスボを打っているから打たなくていいよという段階にはないだろうと考えております。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございます。他に何かございましたらお願いいたします。加地先生にお伺いしたいのですが、アブリスボを打っている方はいるのですか？

徳島大学 加地部会長：

大学ではやっていなくて、セミオープンしている元の病院で打ってもらったり近医で打ってもらっている感じになります。なので、別宮先生、日赤とか、西村先生、県中がどうされているのかというのが聞きたかったのですけれども、どうなのでしょう？

徳島赤十字病院 別宮部会長：

日赤では実際、打ってはいません。どちらかという今、加地先生がおっしゃったように、セミオープンで連携している開業医さんたちのところで、打っていただいているように思います。

アブリスボを打った時に感染しないのではなくて、感染はするけど重症化する新生児が減るという報告だったと思います。お母さんに、アブリスボを打っておけば新生児の感染率は少し下がります。その期待よりも重症化する新生児が減るので、入院する新生児が減るのでいいですよというのが売りだったように思います。ちなみに私たちの施設ではワクチン接種は行えていません。

徳島県医師会 斎藤委員：

すみません。徳島県医師会常任理事の斎藤です。私、産科の開業医をしています、だいたい10人に1人か2人ぐらいは現在打ってくださっています。3万円ぐらいする高額なものではありますが、初期検査の段階で全員の妊婦にアブリスボの説明はしています。以上です。

徳島大学 加地部会長：

ありがとうございます。すみません、何かの資料を使っているのですか？アブリスボの説明に際して。

徳島県医師会 斎藤委員：

はい、アブリスボのワクチンの会社のものを使って説明をさせてもらっています。

徳島大学 加地部会長：

確かに先生みたいに全員に説明できたら一番いいのではないかと思いますのですけれども。母子手帳を渡すときに一枚渡すとか。県で作って渡して、ここではできますよというふうにしてもいいのかと思ったり。動画を作られてました？何か公開されているのを最近見たのですけれど。

徳島県医師会 齋藤委員：

そうなのですか？リンクを貼った程度だと思います。

徳島大学 加地部会長：

そういう周知など、出生後だけじゃなくて、妊娠のワクチンについても、なにかしてもいいのではないかと思ったりして。先生の所とかで打っていただければありがたいと思っています。

徳島県医師会 齋藤委員：

私どもは徳島市民病院にもよく妊婦さんを紹介してるのですけれど、市民病院では多分打ってくださっているように聞いています。部長の山本先生からお聞きしたことがあります。

徳島大学 加地部会長：

わかりました。ありがとうございます。

徳島大学 岩佐会長：

小谷先生、お願いいたします。

徳島赤十字病院 小谷 裕美子：

大学から日赤に異動し、10月から働いて実感するのが、1か月、2か月、3か月の赤ちゃんが多くて。重症化したためへり搬送で兵庫まで連れていった子もいます。なので、小児科でこんなに大変だよというお母さんに、お兄ちゃん、お姉ちゃんがいらっしゃったらかかってしまうことをわかってください、ということで、特にお兄ちゃん、お姉ちゃんがいらっしゃる方を重点的にお伝えいただけるといいのでは？と私たちは常々話しあったりしてるのですけれど。小児科からの一言というか、そのようなものもパンフレットに付け加えていただければいいのではないかと思います。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございます。他は何かありますでしょうか？ワクチンはやはり、医師が直接説明する方が。どう説明するかによってずいぶん受けるかどうかということが変わるような気もするのですが、やはりそこはニュートラルにパンフレットを渡すというのにとどめた方がいいのですけれど。齊藤先生のように、若干積極的に。

徳島県医師会 齋藤委員：

はい、そうです。うちは小谷先生がおっしゃったように、特に兄弟がいっしょやる方にはいいですよというふうに、医師からも、それから看護師さんからもお話をしています。以上です。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございます。

徳島大学 中川委員：

RSの感染経路はご兄弟からの感染がやはり非常に多いので、経産婦さんで小さいお子さんをお持ちの方に関しては、重点的に産婦人科の方からもアブリスポの投与を勧めて、接種を勧めていただければいいのではないかなと思います。やはり上のお子さんがRSに感染した経験があるお母さんというのは、入院しても子供がゼーゼー言いながら全然夜も寝られないとか、そういう経験をしていますので、やはりアブリスポで、今、別宮先生がおっしゃったような、重症化を予防できるというお話をいただければ、ずいぶん、その接種の金額は高いですけど、そのハードルは下がるのではないかなと思いますので。まずはとりあえず経産婦さんをターゲットに、積極的にどんどん勧めていって、それを初産婦さんの方にも広げるというふうにしていただければいいのではないかと個人的には考えます。

徳島大学 岩佐会長：

横山様お願いいたします。

徳島県看護協会 横山委員：

徳島県看護協会の横山と申します。いつもお世話になります。母子保健専門部会とか、今のRSウイルスの予防の話とお伺いいたしております。乳児死亡については、以前は県内で10名を超えて死亡があったところ、周産期医療協議会でご検討いただいて、ずいぶん減っておりますし、RSウイルスについても、最近ほとんどの妊婦さんが知っていらっしゃるという現状をお伺いしておりますので、やはり普及啓発は非常に重要と思います。看護協会では、保健師職能委員会、助産師職能委員会、看護師職能委員会ということで、各職能ごとに委員会を立ち上げておまして、委員会での

情報提供や普及啓発が効果があると思っています。また、加地先生のおっしゃっておられた突然死症候群の勉強会とか研修会とかRSについてのパンフレットとかありましたら、一緒に啓発していきたいと思っています。県内の出生数も減少している中で、やはり一人一人のお子さんを大事に育てていくということが、今後本当に大事になってきていると思います。関係機関と連携して進めていく必要があると思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございました。別宮先生お願いいたします。

徳島赤十字病院 別宮部会長：

アブリスボの注射を、妊婦さんに勧めていかないといけないと思うのですが、私が何人かに説明をしている時に一番印象に残っているのは、打ちたいけどやはり高いと言われたことです。3万円以上する。これ、県の方々をお願いというか、提案と言いますか、例えば半分とか、あるいは3万円以上するのが1万5千円で打てるとか、もっと極端であれば1万円ぐらいで打てるというような、県としての補助みたいなものを今後検討していただくということではできないのでしょうか？

徳島大学 岩佐会長：

今すぐにはお答えできないと思いますので、今後ご検討いただければと思います。

徳島大学 中川委員：

前に苛原先生からそういうご提案を県の方にされたそうなのですが、なかなか難しいのではないかという感じで、苛原先生はおっしゃっていました。

徳島赤十字病院 別宮部会長：

はい。そういうこともあったので、またいろいろなところで同じような声を上げないといけないと思ったので、この会であえて提案させていただきました。

徳島大学 岩佐会長：

ありがとうございます。斉藤先生もぜひ、その点を。

徳島県医師会 斎藤委員：

全国的に見たら自治体でその補助が出ている事例もあります。製薬会社の人に聞いたら、北海道のあるところでは出ているというふうには聞いていますが、やはりそこは非常に小規模なので、財政的な負担も少ないように言っていました。それから県の方

も、やはりまだ新しいワクチンであるので、二の足を踏んでいるというか。HPV の時で、少し懲りているのは、国も。そういうワクチンは痛い目にあつた過去があるようで、様子見というふうなことを苛原先生と県の方はおっしゃっていました。以上です。

徳島大学 中川委員 :

高知県の方なのですけれども、一部の小さな市でアブリスボではなくて、ベイフォータスを公費でやり始めたところがあるらしいです。須崎かどこかなのですが。比べたらアブリスボよりも、多分ベイフォータスを全部の赤ちゃんにやる方が効果は圧倒的に高いかなと思うので、できればそういう方向性を徳島県で出せば多分それが一番いいのではないかとは思いますが。よくわからないのですけれども、高知でそんなことをし始めたところがあるというのはすごいというふうには感じております。以上です。

徳島大学 岩佐会長:

ありがとうございました。忌憚のないご意見をたくさんいただきありがとうございました。これで議事は一応終了といたします。